

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月26日

【評価実施概要】

事業所番号	NO. 0170502314		
法人名	医療法人社団 翔嶺館		
事業所名	グループホーム 健寿館		
所在地	札幌市厚別区厚別東4条2丁目1番37号 (電話) 011-897-5699		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成19年9月20日	評価確定日	平成19年10月2日

【情報提供票より】 (平成19年8月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	10月	25日
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	7.5人	常勤	6人,	非常勤1,5人, 常勤換算6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 1・2・3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000~52,000 円	その他の経費(月額)	15,000円 暖房費9,000円(11月~3月)	
敷金	(有) (36,000~52,000 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要 (8月21日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名	
要介護1	2名	要介護2	1名			
要介護3	2名	要介護4	4名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	82歳	最低	72歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新札幌聖陵ホスピタル・新札幌ウイメンズクリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム健寿館は、母体病院の敷地内に立地し、常時、医療機関と連携しながら利用者及び家族が安心できる体制を作っている。建物は病院を改造したもので、2階・3階が居住空間になっており、居間、食堂が3階にあるので、移動がリハビリに繋がり、車椅子生活から歩けるようになった利用者もいる。管理者は、認知症ケアに熱心に取り組み必要に合った介護を実践しつつ、希望を最大限尊重する努力をしている。また、職員の育成にも熱意をもって、資格取得研修の機会を勤務として具体的に支援している。管理者と職員は、利用者に感謝する信念の下で、常に優しく接し、出来ることはしていただく事を基本としながら共に生活する姿勢に徹している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回のサービス評価で課題になっていた地域へ向けた取り組みは、訪問者が尋ねやすいように看板を設置し、町内会への入会が厳しい条件の中で、地域の催しに参加するなど改善への取り組みが始められている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の実施には、管理者と、新人を除く職員が取り組み、自己評価の意義を理解し、これを普段のケアの反省や気づきの機会と捉え、フィードバックしながら改善に向けて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3ヶ月に1回開催し、情報提供をする程度で、意見交換をするまでには至っていない。今回の自己評価を報告しているが、外部評価の結果も会議の議題の一つとして取り上げる予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情窓口と申し出方法を廊下に提示し、アンケート及び意見箱を設置している。家族の本音を引き出すため来訪時や電話などの機会を積極的に捉え、要望や苦情を伺うようにしているので今後も日々、時間にとらわれずに必要な改善に即取り組んでいく。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会の理解が得られない状況のため町内会には加入していないが、町内のゴミ収集に協力し、地域行事のお祭りや日本舞踊に参加している。近隣住民との交流は少ないので、隣接のデイサービス利用者との交流から、徐々に地域の行事に参加し、地域との連携や住民との交流を深めていく予定である。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義は理解しているが、理念の中で地域との密着については分かりやすい表現になっていない。	○	分かりやすい理念を作り上げているので、今後は、地域密着型サービスとしての視点も加えるよう期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は見える所に掲示していて、管理者は日常的なケアの取り組みの中で理念を説明している。職員新規採用のときは、一緒に働きながら、慣れた頃に理念の方針を伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアの受け入れや町内のゴミ収集に協力し、地域行事のお祭りや日本舞踊に利用者全員で出かけるなど、出来ることから始めているが、地域住民との交流にまでは至っていない。	○	隣接のデイサービス利用者との交流を始めているので、今後は、地域の行事への参加をさらに広げ、住民との具体的な活動を通して交流を深めることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義を理解し、管理者と職員で話し合いながら実施している。前回の外部評価で指摘された点は、積極的に取り組み、ほぼ改善している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を3ヶ月に1回開催している。利用者の状況や事業所からの説明が主になっているが、今回は自己評価の結果も報告し前向きに取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者との行き来はない。区役所には月に1-2回訪問しているが、挨拶程度になっている。	○	今後は、市や区役所を定期的に訪問し、家賃の便宜を計っている実情の情報交換をするなど、担当者との積極的な連携を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の「たより」に、普段の生活や行事の写真のコピーを載せ、利用者の暮らしぶりを報告し、また、健康状態の変化があった場合には、必要に応じて発信している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階に外部者への苦情窓口先を明示し、意見箱も設置している。管理者は、家族の本音が引き出せるように、来訪時や便り、電話などの機会を通し、家族とのコミュニケーションを積極的にはかっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の担当制をとっているため、交代時には家族が不安にならないよう対応を説明している。利用者の心身に影響することを予測して業務の調整をし、管理者も職員に加わって利用者を優先に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・講習の案内を閲覧できるようにし、資格取得研修の機会を勤務として具体的に支援している。内部研修では、認知症ケアなど事例を通して学ぶ機会を作っている。職員の採用時には、個人の状況を見極めながら、2～3ヶ月くらい、先輩に付きながら業務を進めるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業の管理者会議への参加や見学で得た気づきを役立てるようにしているが、職員間の相互研修や交流にまでは至っていない。	○	近々、同業者の相互研修の予定があり、職員の参加も計画されているので、同業者との交流を通しての質の向上を期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入院先から退院後に入居を希望する利用者が多く、家族の見学や来訪の際に話し合っている。入居後、1週間かけて、支援の見極めなど実際に観察し、不安なく、慣れていただくことを優先している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の立場になって考え、利用者の気持ちや行動を理解できるように、日々努力をしている。喜怒哀楽を共にし、常に優しい対応で関係作りに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との会話や職員間で把握できた話題など、表出されない思いも汲み取り、利用者の意向を把握している。ただし職員は、努力はしているが利用者の思いを満足させるまでには至っていないと感じている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は介護支援専門員が、職員からの情報および本人、家族の要望と意見を取り入れて、センター方式に基づいて原案を作成し、さらに看護師が医学的判断を加えた上で作成している。最後に本人および家族の確認、同意を得て実行に移している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個々の介護計画は3ヶ月ごとに見直し、半年ごとに全員について全体の見直しを行っている。状況に変化が生じた場合は速やかにカンファレンスを行い、介護支援専門員が職員と看護師の意見を求めて随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療との連携体制をとって医療の必要に応じた対応をしているほか、通院の移送援助、外泊の支援も行っている。外部の一般の方への介護相談にも応じている。実績はないが、短期入所の用意もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の利用は、本人、家族の意向に沿って支援しており、必要に応じて通院の送迎を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、家族と話し合っており、同意書を得ており、職員にも周知している。ただし、本人については、認知症の程度により、十分な話し合いが困難な場合もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の生活歴や、これまで過ごしてきた環境等に配慮して、丁寧で親しみのある接し方や言葉遣いがなされている。個人情報を含む文書類は決められた場所以外に持ち出さないように配慮されている。職員からは守秘義務に関する誓約書を取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の病状によっては職員がペースをリードすることもあるが、利用者の生活のペースを把握して、必要に合った介護を実践しつつ、希望を最大限尊重する努力は行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食に対して興味が持てるよう、調理、配膳、片付けなど、個々に合った作業を分担している。メニューの希望は随時尋ねて取り入れるようにしている。食事中はなるべく静かに、食事のみに専念してもらっているが、食後やおやつときは楽しく歓談している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯は午後のみであるが、毎日入浴できる態勢を整えており、この範囲で希望に沿った入浴に応じている。利用者の体調を観察して、少なくとも週2～3回の入浴または清拭を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	中には体力や体調の限界で趣味を楽しむところまでは行けない利用者もいるが、個々の利用者の生活歴を考慮して、料理、園芸などを職員とともに楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は全員参加をモットーとし、みんなで楽しみを共有するようにしている。各人の希望を順に取り入れて外出先を決めている。ホテル、動物園、海などに行っており、近いうちには外食の予定もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鉄筋コンクリート造りの2, 3階部分が居住空間という建物の構造上、自由な外出は困難であるが、居室や玄関に施錠はしておらず、その代わりドアに鈴をつけ、廊下にカメラを設置して、外出を察知できるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災その他、災害発生時の非難マニュアルが整備されており、職員は熟読してシミュレーションしている。隣接の協力病院と合同で、年2回、利用者も加わった消防訓練を実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は栄養士の管理の下で作成している。食事の摂取量、水分量は、実量を把握し、記録している。水分量は看護師の助言の下に目標量を設定し、気温、体調に応じて増減している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵画や植物、金魚、利用者の作品などを配置し、親しみやすく家庭的な雰囲気を作ることに努力している。手作りの部屋の表札も暖かな雰囲気をもし出している。	○	元々病院を改築した建物のために家庭的とするには難しい構造上の制約はあるが、それだけにいま一工夫の努力を期待したい。和室を連想させる掛け物、置物などはいかがであらうか、一考を期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	病室を改装した居室のため、基準の2.6倍(19.5m ²)の広さがあり、非常にゆったりしている。そのためタンス、ソファなど思い思いの家具調度がつぶり持ち込まれ、居心地の良い居住空間が作られている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。